

INAXガレリアセラミカは“新鋭作家による新しいやきものの表現の場”として企画展を開催しています。

## 野口 美香 展

黒・絡み、くねる陶

会期 = 2009年2月6日(金) ~ 3月3日(火)

休廊日 = 日曜・祝日

開館時間 = 午前10:00 ~ 午後6:00

作家によるアーティスト・トーク開催 = 2月6日(金) 午後6:30 ~ 7:00

会場 = INAXガレリア セラミカ

東京都中央区京橋3 - 6 - 18 INAX:GINZA2F TEL03-5250-6530

企画・制作 = 株式会社INAX

入場無料

INAXの文化活動ホームページアドレス<http://www.inax.co.jp/culture/>



「神秘の力に絡まれながら」 2008 H160cm 不定形

次回予告

秋永邦洋展

2009年3月6日(金) ~ 4月2日(木)

INAXガレリアセラミカでは、野口美香(Noguchi Mika)展 黒・絡み、くねる陶 を開催します。(2009年2月6日～3月3日)

野口美香の作品は、鈍く黒光りする円管がクネクネと絡み合い、高さ160cmの樹木のようなかたちをした陶のオブジェです。インスタレーションの幅は200cm四方に広がります。ひとつの円管は人の腕1本くらいの大きさですが、それが捻じ曲がり無数に重なり合って、爆発するような強烈なエネルギーを発しています。

野口美香(1981年生まれ)は2008年に大学院を修了したばかりで、今展の出品作は、この「神秘の力に絡まれながら」1点となります。

作品のモチーフはガジュマルの樹木です。沖縄でこの樹木に出会った時、分岐して繁茂する幹、地面に向けて垂れる気根、土台や幹に絡みつき肥大化していく姿が忘れられなかったと話します。かたちを写実的に再現するのではなく、不思議で神秘的な魅力や熱帯植物特有の強い生命力を取り込みたいと考えました。

成型には好きなロクロを使い、その後切断して増殖するように絡めつけていきます。

人間の感情やむき出しの欲求、さまざまな事象が絡み合い、吸収、反発、溶け込んで巨大化していく生命力を表現しています。

また野口は、土にも同様の魅力を感じています。土には自由自在に変形する無限の可能性や、釉薬や焼成によって変わる表情の多様さ、冷たさや暖かさ、薄紙のように儂く、鋼鉄のような強靭さなど、自然の物質が生み出す神秘性を感じとって制作しています。

沖縄ではガジュマルの樹木には妖精「キムジナー」が棲んでいると信じられ、祭られ、魔除けに使用されています。「キムジナー」の姿は子供で、純粋な心の持ち主にしか見ることができないと言い伝えられています。

今展は野口美香の初個展開催となります。圧倒的な存在感を放つ作品から、こうした事象を感じとって頂けるものと思います。

- \* 本プレスリリースの掲載写真はダウンロードしてご使用いただけます。
- \* 本展告知以外での使用、転載を禁じます。
- \* ご使用にあたってはINAXガレリアセラミカまでご連絡くださいますようお願いいたします。
- \* 容量が足りない場合および、その他の写真については、お問合せください。

[野口美香 プロフィール]

1981年 大阪府生まれ  
2005年 京都造形芸術大学 工芸学科 陶芸コース 卒業  
2007年 多摩美術大学 大学院美術研究科 修士課程工芸学科 陶専攻 終了

活動経歴

2005年 京都同時代ギャラリー-shop collage 二人展「陶展 - つちりずむ - 」  
京都市美術館 「卒業終了制作展」  
2006年 愛知県陶磁資料館「日韓現代陶芸 - 新世代の交感展 - 」  
銀座ユニグラバス「掌展」・立体グループ展・  
2007年 多摩美術大学 八王子キャンパス「大学院卒業終了制作展 2007」  
神奈川県美術展 平面立体の部 入選  
chahat 逗子 二人展「みっかみっかまっきまっき陶芸展」  
2008年 品川プリンスホテル「ニューイヤーズイベント 2008」  
港南台高島屋「私の手作り一坪 shop」  
京都 賀茂窯「20人の珈琲展」  
銀座 創画廊 グループ展「LOVE 転」  
西荻窪 ギャラリーMu-Rung 個展「ミカ プチ陶芸展」  
鎌倉 ギャラリーkaya 二人展「冠箱展」

現在、神奈川県逗子市在住、自宅に工房を構え作陶。

この他、関東を中心にグループ展、イベントなどにも参加、湘南地区を中心にワークショップなども行っている。